

特集 地域で羽ばたく中小企業診断士 3

第1章

地域から日本を盛り上げる 中小企業診断士



「地域で羽ばたく中小企業診断士 3」執筆チーム

1. 地域企業の実態

後継者不在、人口流出、労働力不足など、昔から存在する地域課題は現在も根強く残っている。それに加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、地域企業が大きなダメージを受けていることは間違いない。

帝国データバンクが発表した「新型コロナウイルス関連倒産」動向調査において、令和4年3月16日時点で、新型コロナウイルスの影響を受けて倒産した企業数は全国で3,000件にも達した。

その中でも、地域経済を支える観光関連事業者と飲食店が全体倒産件数の4分の1を占めており、地域企業が苦境に立たされている姿がわかる。

このような状況下において、地域で活動する中小企業診断士に求められる役割は大きく、その活躍できる場は多い。

2. 特集の概要

地域で活動する中小企業診断士へのニーズは高いが、実際に活動している人の絶対数は多くはないと思われる。

令和3年度の中小企業診断士試験においては、およそ1,600名が合格した。その中で、東京、大阪、名古屋地区の合格率は全体の合格者のうち84.4%を占めており、大都市圏に中

小企業診断士が集中していることが想定される。

今回の特集は、地域で活動している中小企業診断士が多くはないと思われる現状において、地域企業に寄り添う活動をしている、いわば「地域から日本を盛り上げる中小企業診断士」を紹介するものだ。

各章においては、北海道、栃木県、静岡県、山口県、長崎県で活躍している中小企業診断士5名を紹介する。そして、それぞれに対し、「コロナ禍の経営支援」と「地域で活動するための秘訣」について伺った。

コロナ禍となって2年が経過した。中小企業診断士に寄せられる経営者からの相談事項も徐々に変わり始めている。今回、地域の最前線で活躍する5名に、コロナ禍の経営支援の実際をうかがった。

また、地域に根差した診断活動を行うための姿勢や考え方についても惜しげもなく語っていただいた。今後、地域で診断活動をする方のヒントになることを願う。

今回、紹介する5名は経歴もそれぞれ異なる独立診断士であるが、地域に対する熱い想いは共通している。本特集を通して、地域企業とともに歩み、その最前線で活動を行っている「地域で羽ばたく中小企業診断士」の姿を紹介し、それぞれの地域にかける想いを皆様にお伝えしたい。